

ほがらか

ほなみだより

第108号

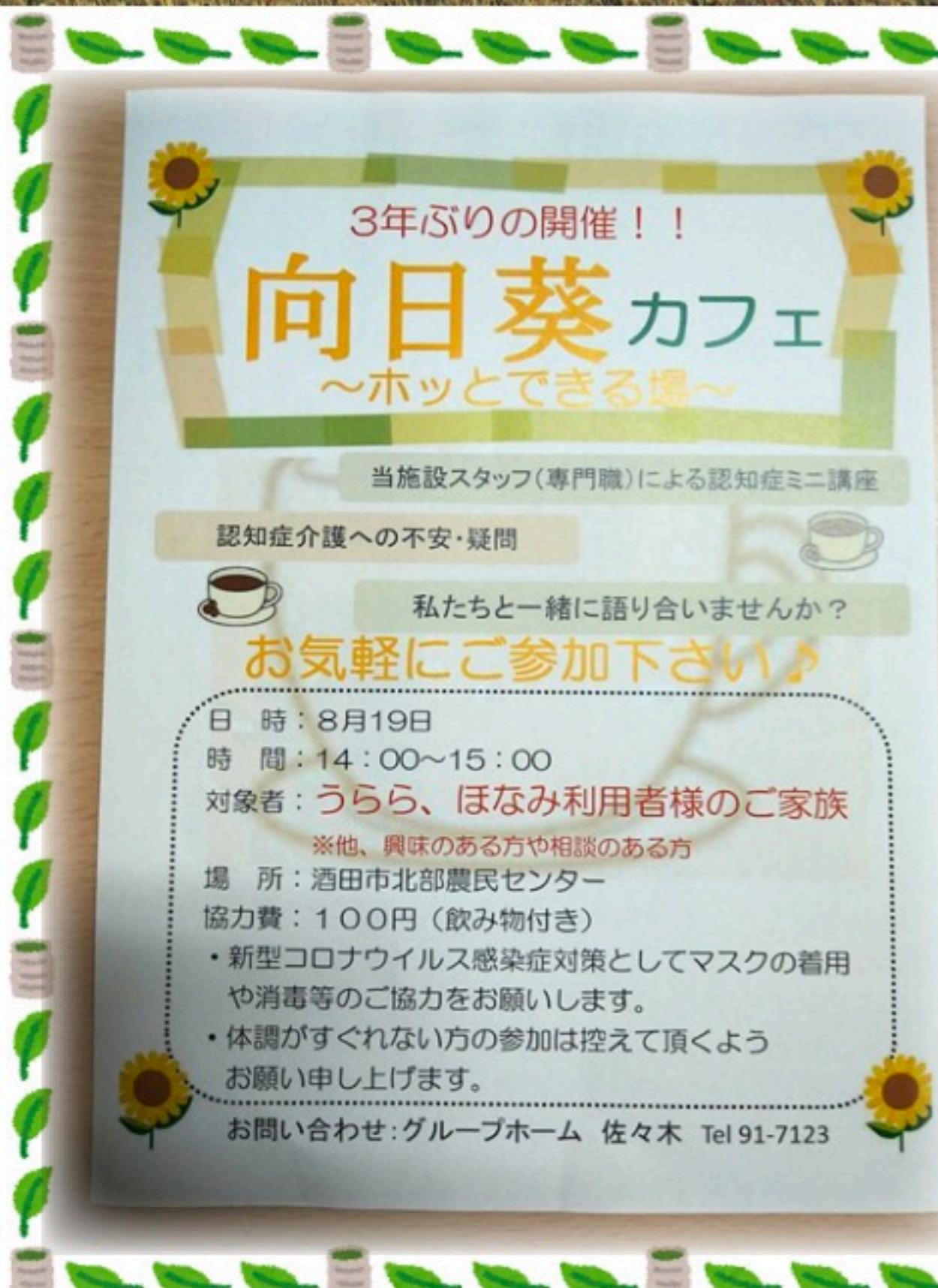
令和5年9月9日

[発行元] 酒田市本楯字前田 127-2
[発行者] 医療法人 宏友会
グループホームほなみ
[問合せ] (0234) 91-7123

三年ぶりに



認知症カフェ再開しました



今回は場所を北部農民センター様からご協力を頂いての開催となりました。日頃の疑問、思い等場所を変えゆつくり御家族の思いを聴く事が出来、私たち職員としても今後の支援の為になる会となりました。次回も企画予定です。参加お待ちしております(佐々木 沙智)

ほなみ、うらら入所サービスを利用されている家族や、認知症を理解したいと考えている地域住民の皆様が対象です。カフェを通じてご家族同士、地域の皆様と、うらら、ほなみ職員と困りごと相談やQ&A、ミニ講座認知症介護体験を話したり、認知症に対して理解を深めることで、参加した方が認知症やその介護に對して自由に話ができる場所であることを目的としています。



認知症窓口あります。
お気軽に相談ください。

ほなみでは、認知症窓口もあります。お困りごと、疑問、思いなど、いつでもご利用ください。



認知症カフェとは・・・
認知症の人やその家族、医療や介護の専門職、地域の方々など、誰でも気軽に参加できる集いの場です。気軽に悩みや、世間話が出来るコミュニケーションの場として、全国各地で運営されています。

宏友会でも平成三十年からコロナ禍前まで毎月開催していました。



ほなみ職員による 認知症コラム

第12回

“待つ”介護

「うちのおばあちゃん、最近ひとりで何にもできねぐなて・・・」と介護をされている方からよく聞かれる言葉かと思います。同じ「出来なくなってしまった」には「できない」と「させていない」の二つあるそうですが、はじめのうちは「させててしまう」というのも理解できます。でも、人は楽な方に順応になった時には「できない」になってしまってしまい、結果「出来なくなる」のです。手を使う事が多いようです。例えば着替えの場面。服を渡しても着替えようとしない時、一枚ずつ手渡しすると着てくれたり、片方の袖に手を通

すと着てくれたりと何かひとつ手助けすることできる事もよくあります。年を重ねると、どうしても動作が緩慢になり若いころに比べて同じことを行っても時間がかかるってしまうのは当たり前ですし、忙しい日々の生活の中、ついつい手を貸したくなってしまふのも理解できます。でも、人は楽な方に順応してしまいがちです。本当は出来る事を先にやってしまい、結果「出来なくなる」のです。手を貸したい気持ちをほんの少し我慢することで、結果、自分で出来る事が増え、介護の軽減につながるのではないかでしょうか。（奥泉 久美子）



大きい梅だの～

仲良し夫婦

パン食い競争、ナイスキャッチ

今年の梅仕事！

願いが叶うといいね

和会にて

ほなみ写真館



編集後記

朝晩涼しくなってきました。今年の夏は、例年にも増して暑い夏でした。今年は特に毎日熱中症アラートで、外で過ごすことが難しい日々でした。そんな大変な夏も、ほなみでは、何か日のか氷や流しそうめん、スイカ割り等で楽しく過ごせました。（佐々木達也）

認知症相談窓口

認知症について相談があるご本人やご家族友人の方などを対象に相談窓口を設置しました。
(91)7123までご連絡か、ほなみまでおいで下さい。

認知症のことで相談がありましたら、ご不明の点や分からない所などありましたらほなみに問い合わせ下さい。

★面会者は問診票を記入。飲食は禁止。

★面会は10分以内。

★場所　ベランダ（雨天時、猛暑時は玄関）

★双方マスク着用、面会の前後に手指消毒。

地域の感染状況を考慮しながら予防対策を取り緩和して面会の対応を行います。

面会は1週間前までに予約受付。午前午後1組まで

日曜の午後に皆さんとDVD鑑賞していた時事。普段何かに興味を示す事が少なくなつて「殿様」が大好き。テレビ前のソファーに足を組んで座り大きな声で笑っています。昔から好きで観ていた番組は自然と興味がわくのか覚えてる様ですね。笑って過ごせる日々を送つてほしいと感じた瞬間でした。（大瀧玲子）

ある日のほなみ